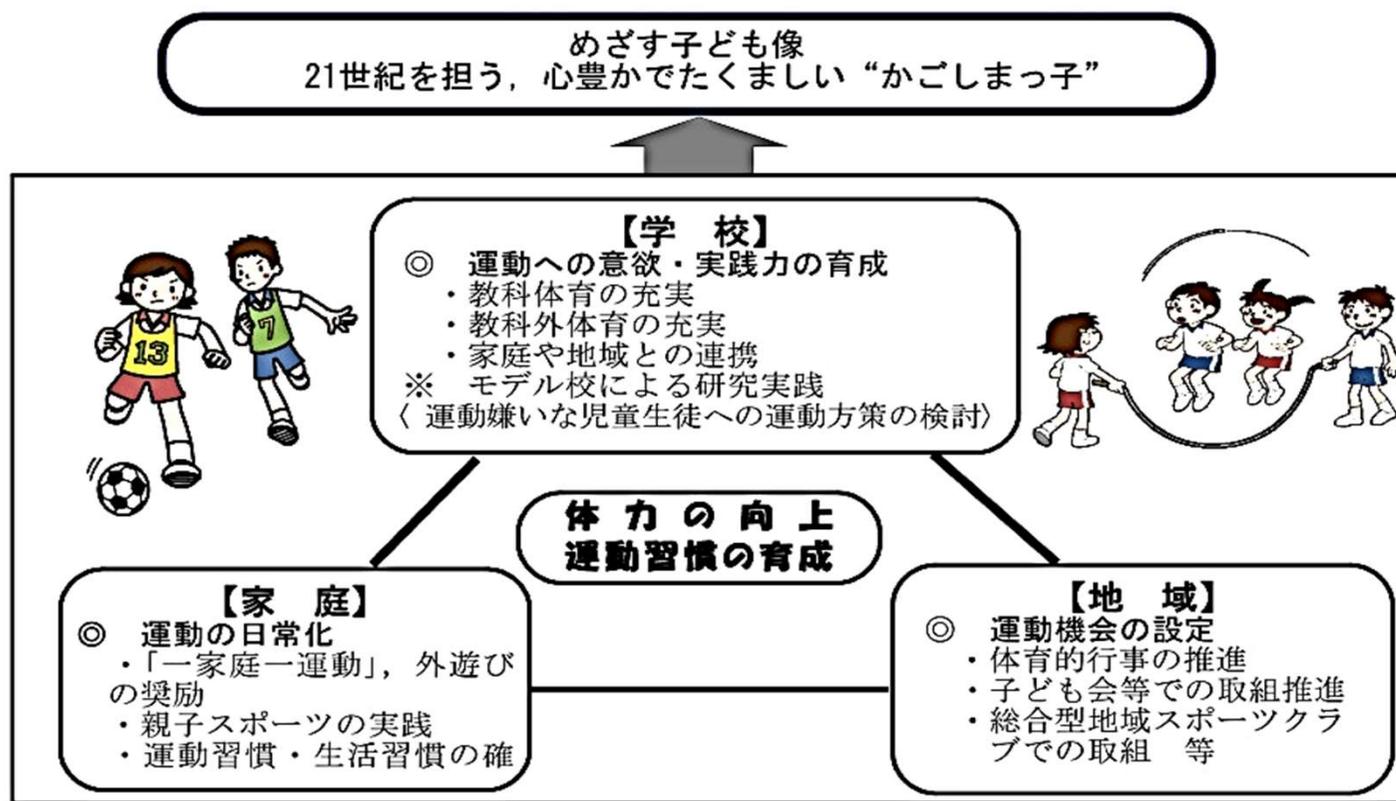


研究発表

 伊佐市立羽月西小学校

● 研究テーマ

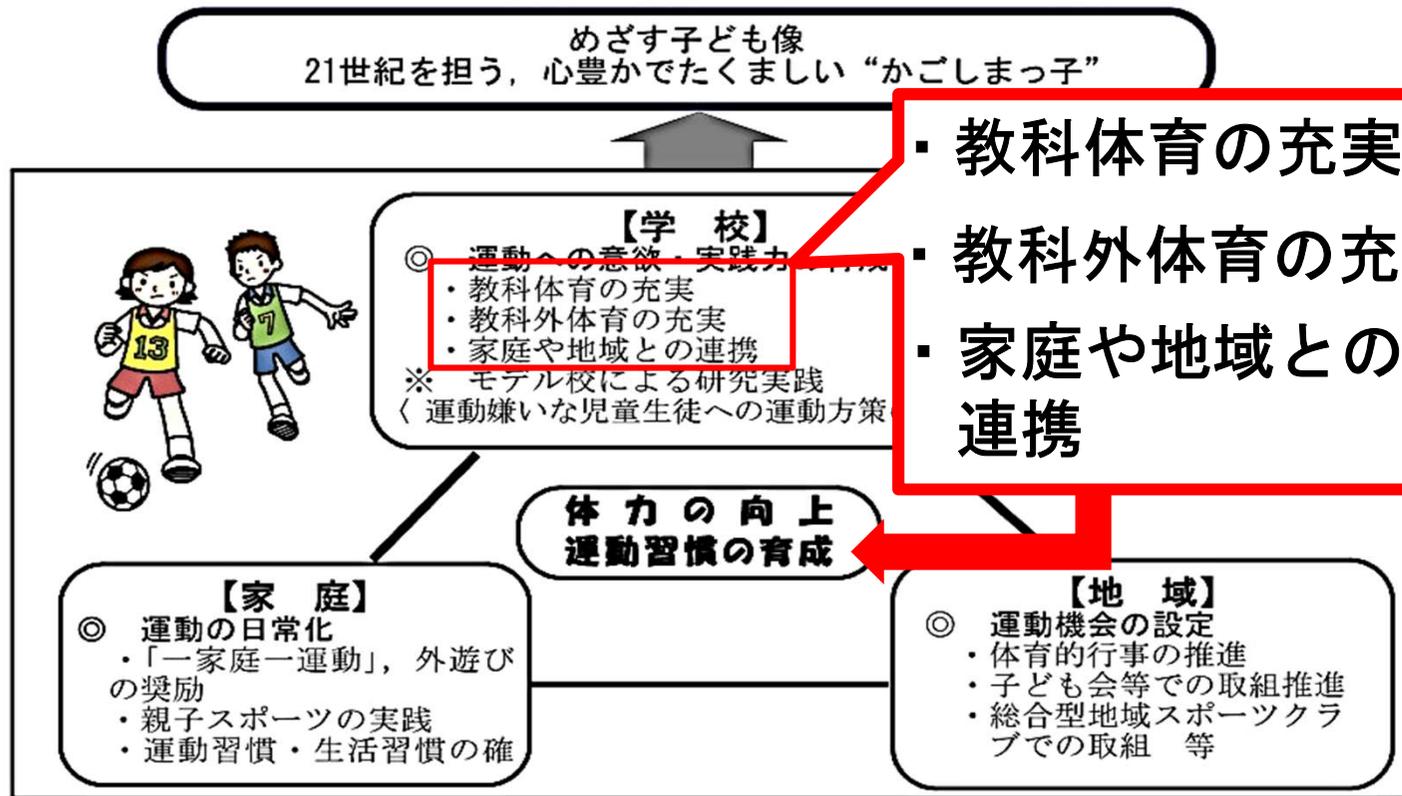
運動する楽しさや喜びを味わい、
進んで運動に取り組む西っ子の育成
～「つながり」を大切にした取組を通して～



『県「たくましい“かごしまっ子”育成推進事業構想図』から

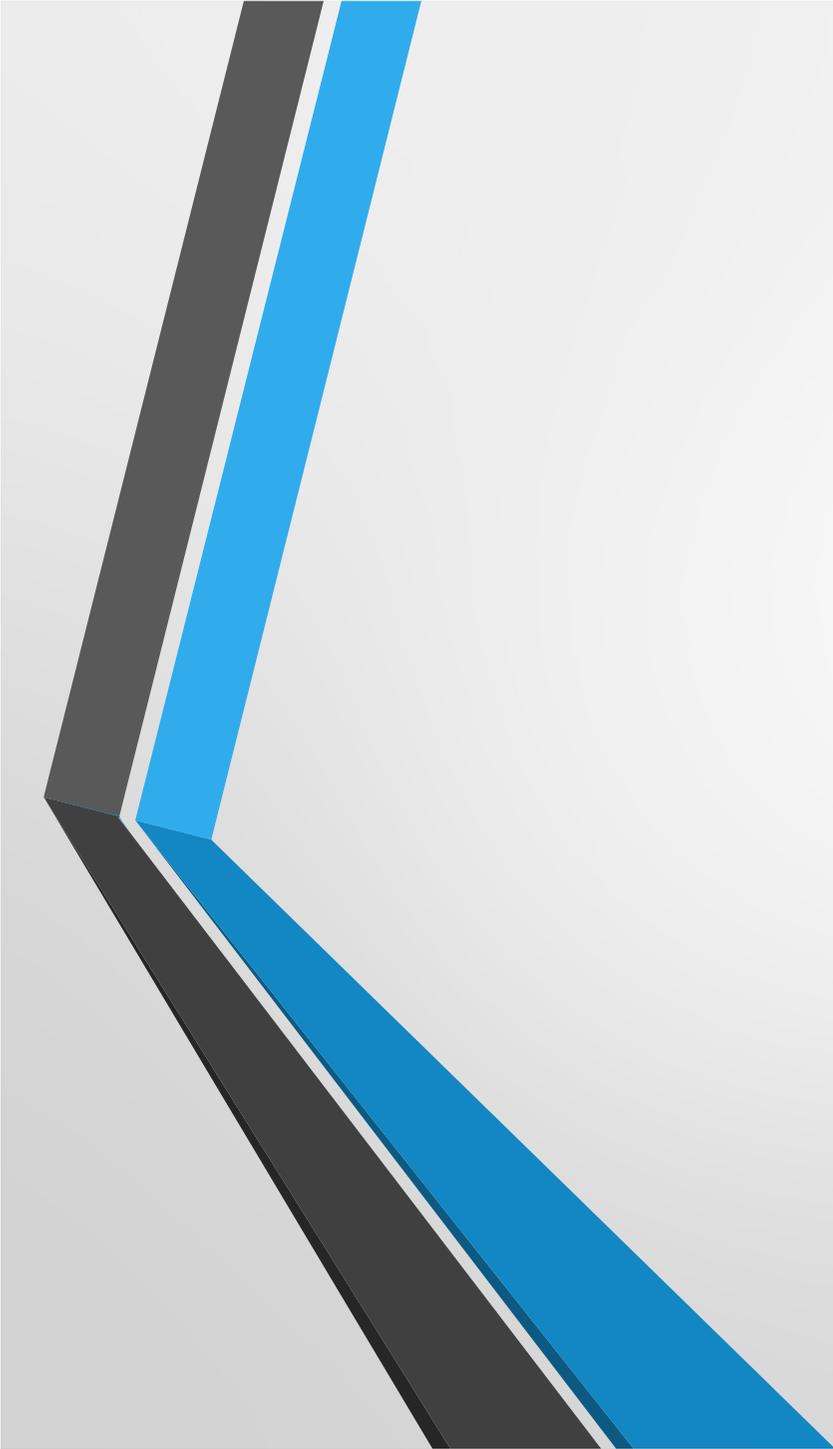
● 研究テーマ

運動する楽しさや喜びを味わい、
進んで運動に取り組む西っ子の育成
～「つながり」を大切にした取組を通して～



- ・ 教科体育の充実
- ・ 教科外体育の充実
- ・ 家庭や地域との連携

『県「たくましい“かごしまっ子”育成推進事業構想図』から



現在の実態

●現在の児童

運動に関する調査より

体育の授業について（単位：％）

		楽しい	やや楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
県	R3	62.9	29.1	6.2	1.9
本校	R3	92.9	7.1	0	0
	R2	78.9	21.1	0	0

- ・運動する楽しさや喜びを感じている子供が増えた

● 現在の児童

児童の運動会振り返りカードより

① 目標に対して、達成できたことやがんばったことは何ですか。

練習や、本番で赤組といっしょに協力ができた。
用具リレーではおちずに、できた。

リレーはバトンパスが上手にできなかつた。
低学年にやさしく教えられた。

② ~~どんなことが心に残りましたが~~

③ これからの学校生活にどう生かして行こうと思いますか。

これからは、高学年として、低学年にやさしく教える
いろいろな行事で、高学年がひきはっていきたいです。

応援練習のように、 んが引、張っていきなさい。

- ・ 課題意識へのつながり
- ・ 主体性の高まり

●現在の保護者

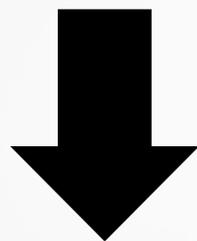
保護者アンケートより

子供の体幹、姿勢の悪さが気になっていましたが、
家庭だけでの取組はなかなか始まりず、困っていましたが、
学校と連携することで、子供自身が体力のなさに気付き、意識が高まった
おかげでまず取組むという行動ができました。次は継続が大事だと思います
ので「あじやかやエリクワイのエクササイズ」とあわせて、日々声かけをして、一歩者にはがんばろう
と思います。

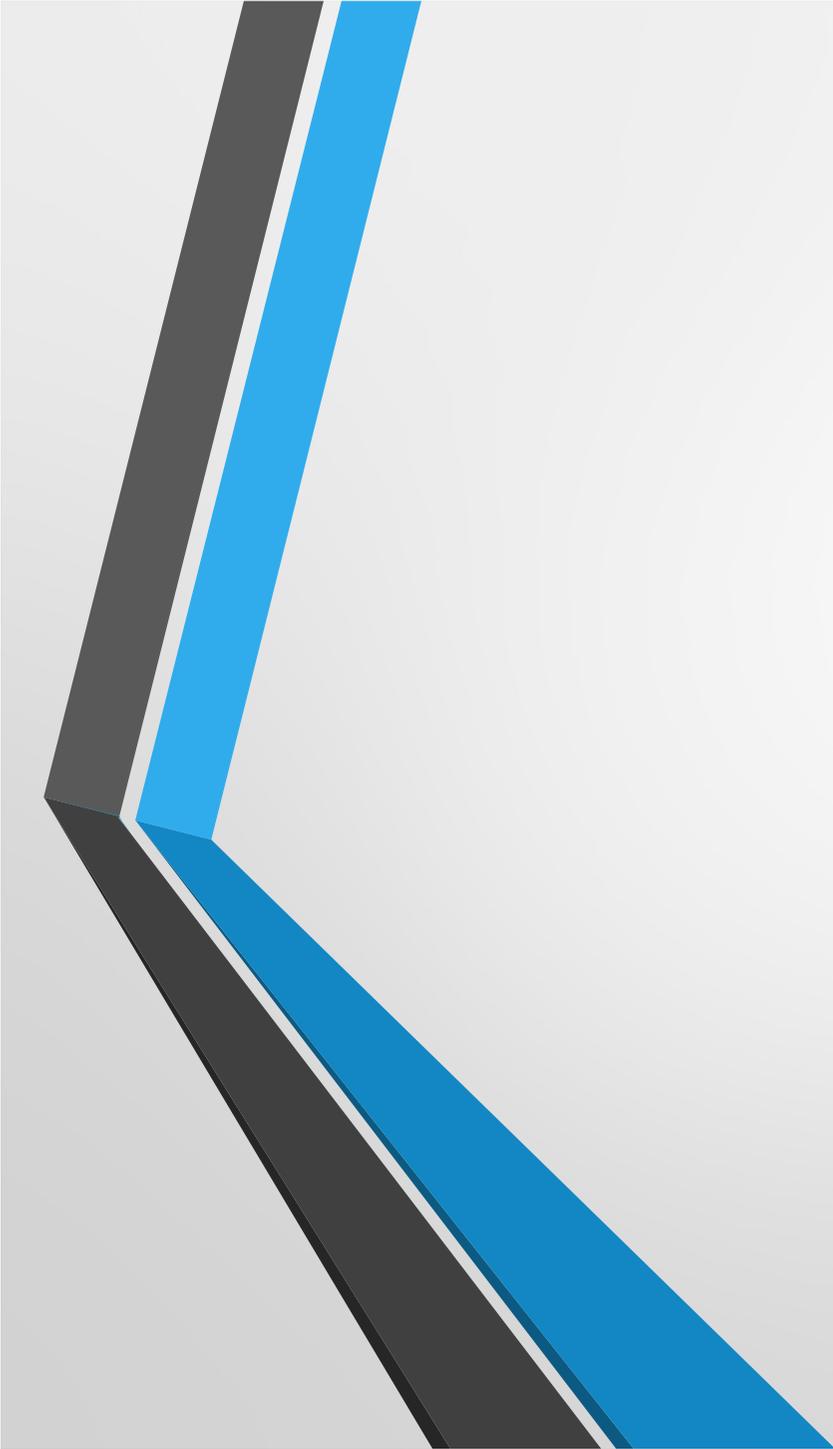
- ・ 保護者の課題意識の高まり

● 成果につながった理由

なぜこのような成果を得たのか



「つながり」の意識を大切にした取組を
実践してきたから



研究の流れ

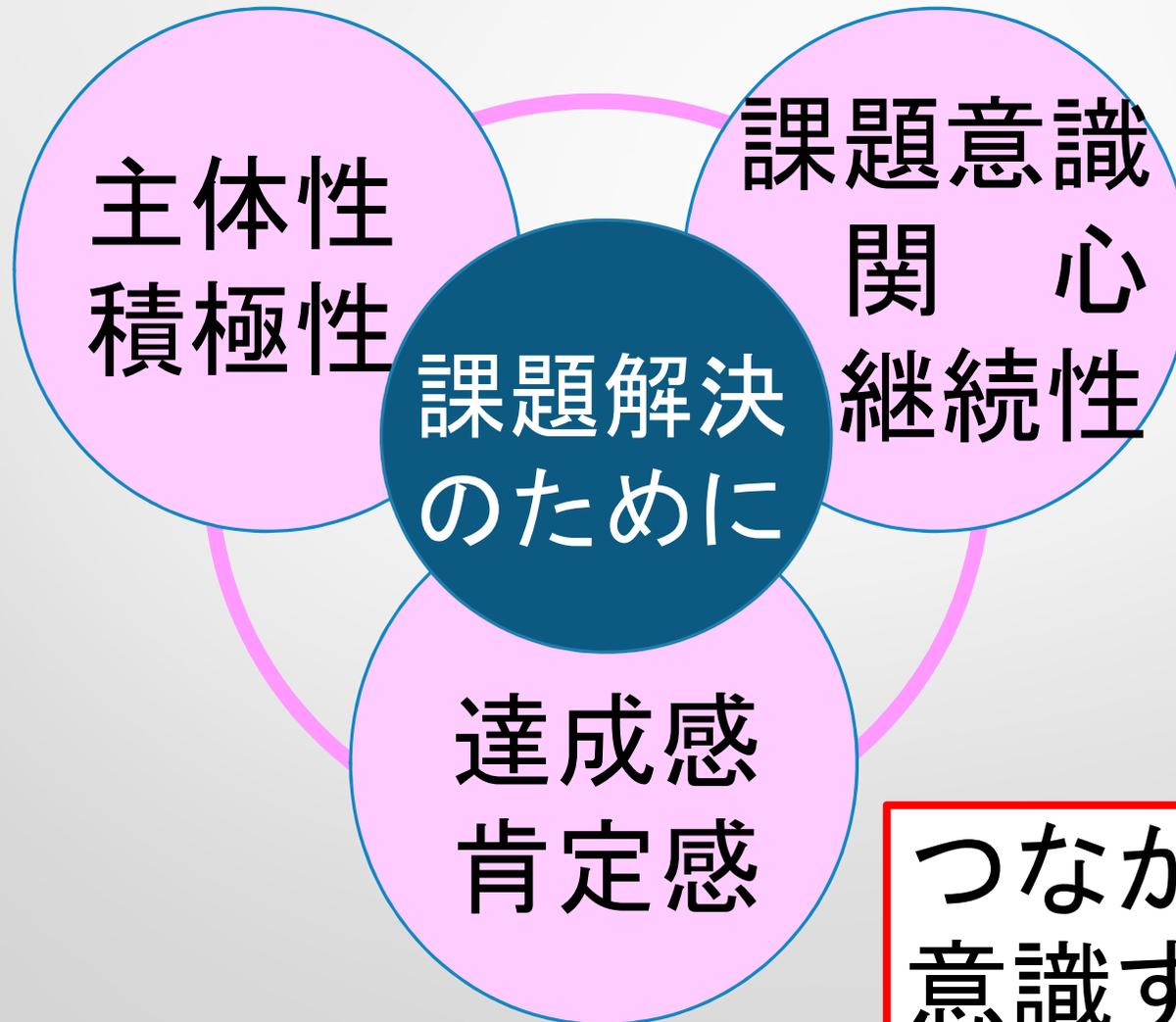
本校の課題

授業：主体的に運動に向かう
姿勢に課題
日常の様子
から

習慣：日常生活における
運動習慣に課題
アンケート
から

調査：筋力、柔軟性、巧緻性等
に課題
新体力
テストから

課題解決に迫る3つの
ポイント



つながりを
意識する

課題解決に迫る3つのアプローチ

家庭や地域との連携によるアプローチ

授業外の実践によるアプローチ

主体性
積極性

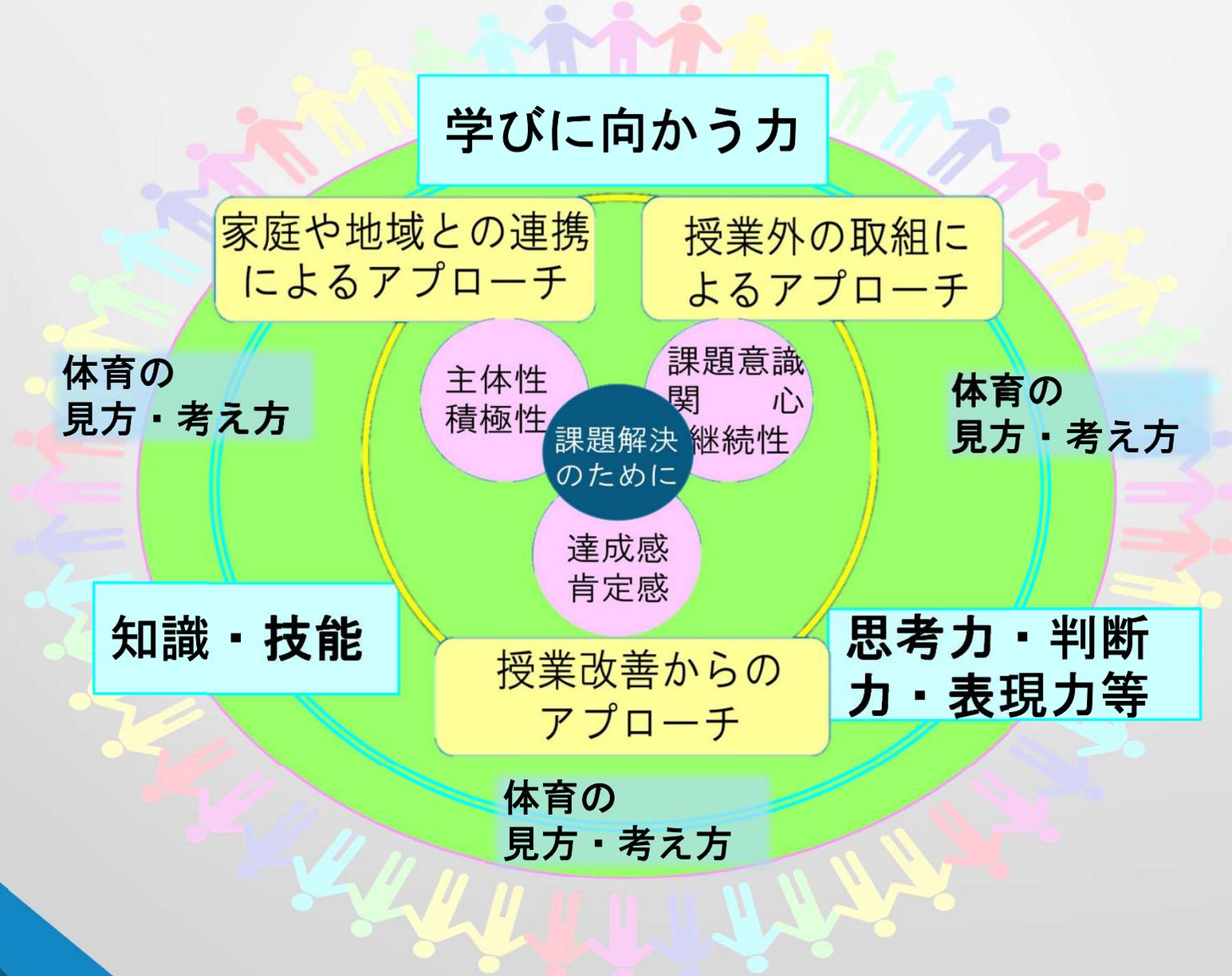
課題意識
関心
継続性

課題解決
のために

達成感
肯定感

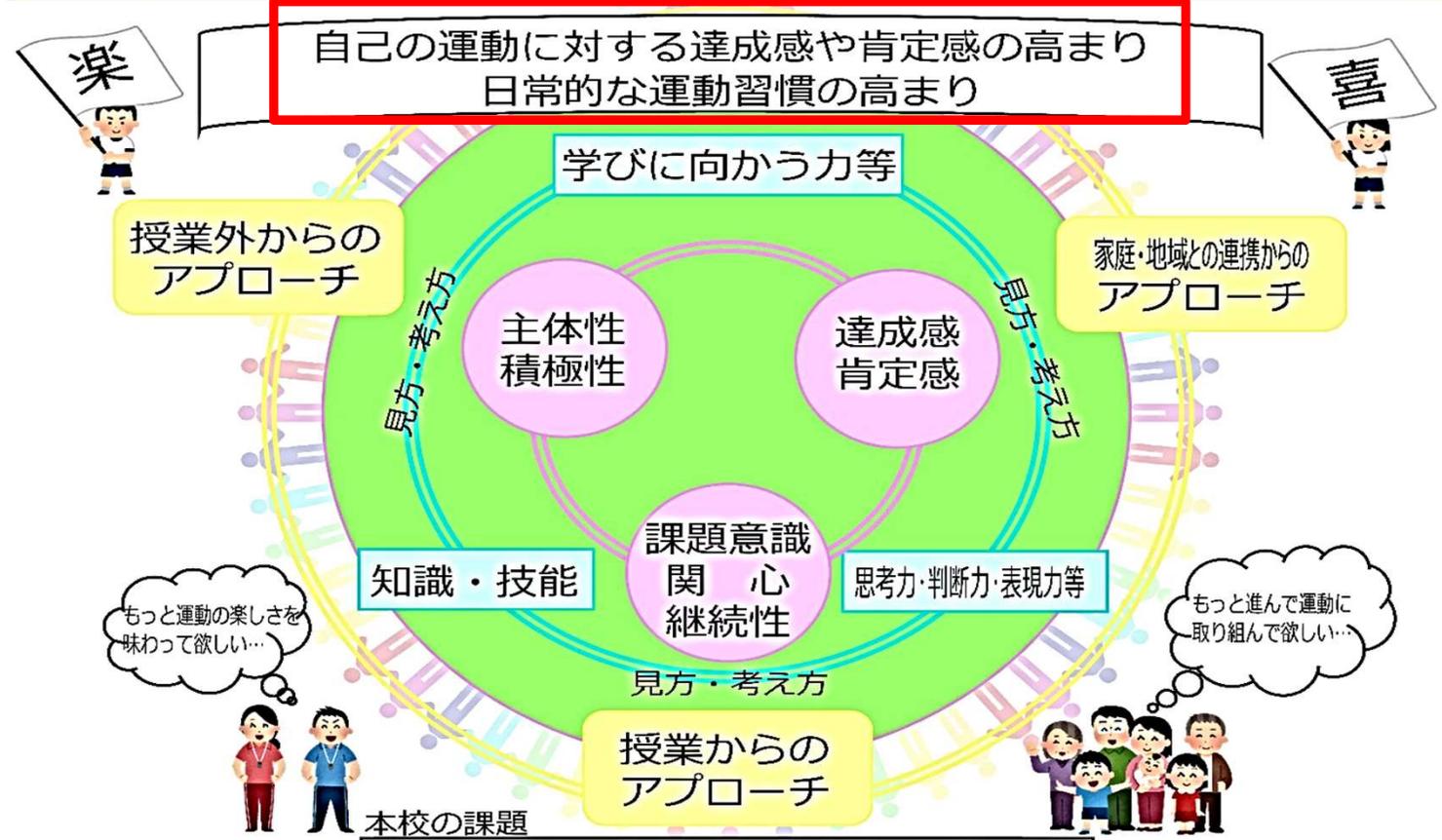
授業改善からの
アプローチ

2つの視点を意識

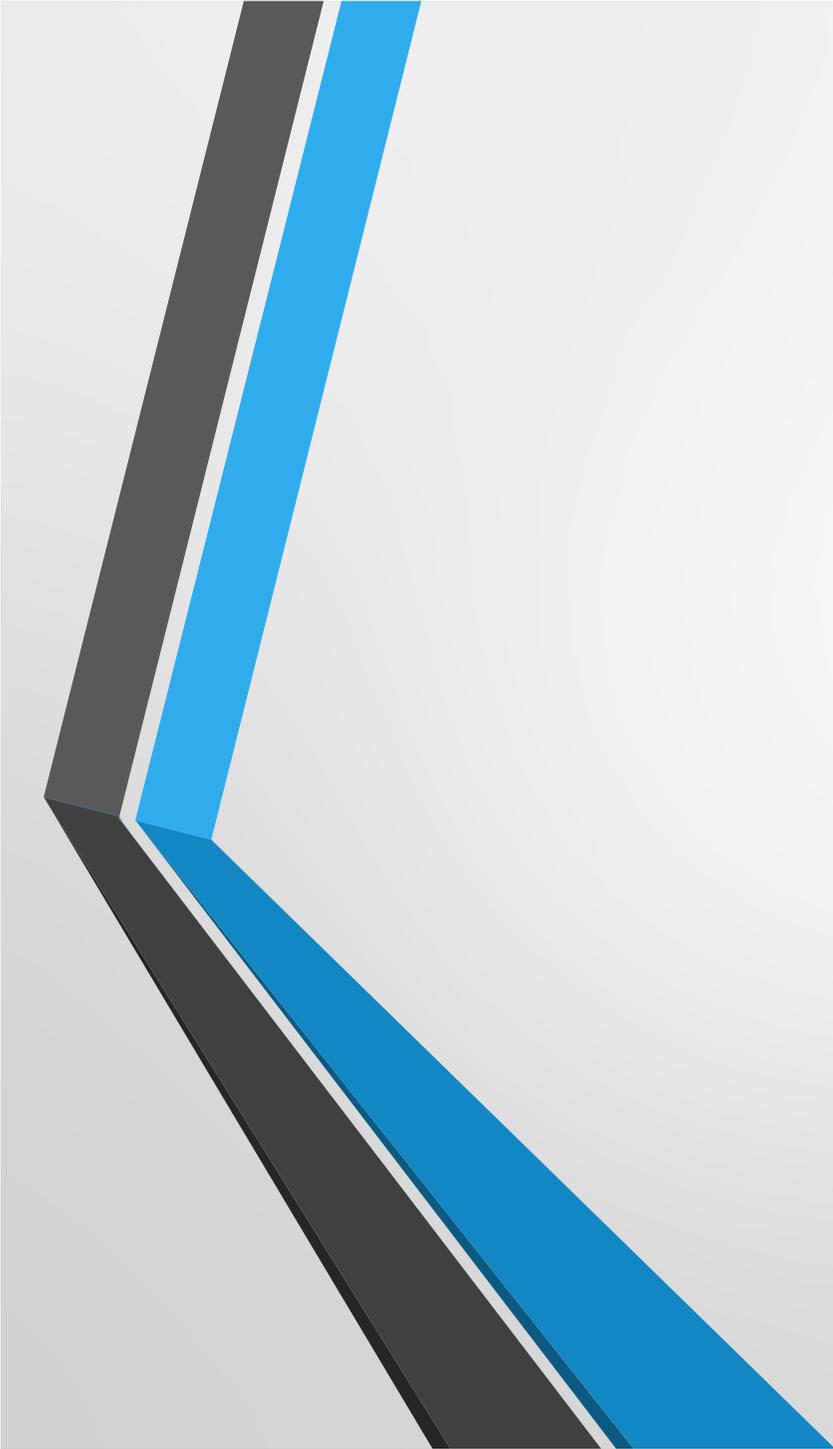


研究イメージ

運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む西っ子の育成
～「つながり」を大切にした取組を通して～



本校の課題
授業：主体的に運動に向かう姿勢に課題
習慣：日常生活における運動習慣に課題
調査：筋力、筋持久力、柔軟性、巧緻性に課題



具体的な実践

○具体的な取組

- 単元の指導計画の作成
- 一単位時間の指導過程の作成
- 板書の構造化
- ICT機器の活用
- ワークシートの活用
- 体育ファイルの活用



単元の指導計画の作成

〔仮説 1〕

● 仮説 1

(授業改善アプローチ)

評価規準の作成

3つの資質・能力

体育の見方・考え方

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
する	② いろいろな高さのボールを片手、両手を使ってはじくことができる。 ③ 飛んできたボールを片手、両手を使って相手コートに返球することができる。 ④ ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。 ☆ 飛んできたボールをキャッチして打つことを認める。	① 人数、コートの広さ、プレイ上の緩和や制限、得点の仕方などの規則を選んでいる。	① ソフトバレーボールに進んで取り組もうとしている。 ④ ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑥ 周囲を見て場や用具の安全を確かめようとしている。
みる		② 自分たちのチームに合った簡単な作戦を選んでいる。	
支える		③ ボールをはじくときや、ボールに体を向けたり、操作しやすい位置に移動したりすることについて考えたことを、動作や言葉、絵図などを使って友達に伝えている。	② 規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ③ 用具の準備や片付けを友達と一緒にしている。 ⑤ 友達の考えを認めようとしている。
知る	① ソフトバレーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。		

評価の方法

	確認 ボールを上手に操作して、みんなでつなぐ キャッチソフトバレー ボールを楽しもう。	8 整理運動 9 まとめと振り返り (上達した子供、チームの紹介)				8 単元の振り返り ・ボールの方向に体を向けるとすぐに動けた。 ・受けやすい場所に動くとうまくできた。 ・友達のかけ声でやる気が出た。等	
評価		④ (観察・ICT)		② (観察・ICT)		③ (観察・ICT)	① (カード)
の思		③ (観察・ボード)	① (観察・カード)		② (観察・ボード)		
観点	③・⑥ (観察)		① (観察・カード)		⑤ (観察・カード)	④ (観察)	② (観察・カード)

- ・ 単元の指導計画の下部に明記
- ・ どの時間に評価するのか
- ・ どの観点を評価するのか



一単位時間の指導計画 の作成 〔仮説1〕

作成のポイント

- 子供に十分な運動量を確保すること
- 育科の見方・考え方を働かせ、「三つの資質・能力」を育成すること
- 活動を通して子供が「できた」「分かった」を感じられる学習となること

● 仮説 1

(授業改善アプローチ)

研究紀要p. 7 補助資料p. 3

一単位時間の指導計画

伊佐市授業改善ポイントとの関連

課程	主な学習活動	共通実践事項(★)	留意点
ひきつけよう つかむ・見通す	1 運動の準備 (道具・場)	★ 授業前に鉛筆を1本体育ファイルにはさんでおく。筆箱からの出し入れはしない。	
	2 準備運動 体幹トレーニング	★ 座って話を聞くときは、体育座りをする(全体を通して)。 ・ 授業前に子供がしていても、運動で使う部位を中心に再度行う。 ・ 各種運動での技能向上をねらい、体幹トレーニングを取り入れる。	★ 体幹トレは「呼吸と姿勢」への意識を整えてから取り組む。
	3 <u>きらきらタイム</u>	・ 主運動につながる運動を中心に取り入れる。	★ 主運動につながるための声かけ、ポイントを大事にする。 (態度的な声掛け: 技術的な声掛け=5:5)を意識
	4 <u>めあての確認</u>	・ 問題解決的なめあてを設定する。 ~ICT活用~ <u>【動画と静止画の適正、意図を明確にして活用を図る】</u> 【何のために】(目的意識)という視点を明確にする	
	5 <u>学習の見通し</u>	・ 単元全体の流れ、一単位時間の流れを掲示する。 (構造的な板書との関係)	
うごかそう 挑戦する	6 挑戦I (ポイントの発見)	・ 試しの活動で、自己(チーム)の課題を発見する。 ・ 子供がわくわくする教材・教具、場、ルール、作戦を構想する。 ~ICT活用~ ・ 状況によっては、教師が準備した選択肢を子供の選択肢として取り入れてよい。	
	7 <u>話し合い</u>	★ 教師の試技(説明)等は最後まで黙って聞く。器具や道具等は触らない。 ・ 自他の動きから課題探究をする。 ・ 「目的」「方法」「ゴール」を設定する。 ・ ワークシートやホワイトボード、板書を活用してポイントをまとめる。 ~ICT活用~	
	8 挑戦II (ポイントを基にした練習)	★ 子供の考えを引き出すコーディネートを心がける。教師が話しすぎない。 ・ 運動時間をできるだけ確保する。 ・ <u>よかった動き等は、積極的に紹介する。</u>	
なっとくさせよう 確かめる(生かす)	9 整理運動	・ 運動で使った部位を中心に行う。	
	10 <u>振り返り(成果・課題の共有)</u>	・ 自己の伸びを実感できるように、全体で価値付ける。(楽しかった→できたから→こつに気付いた、作戦がうまくいった、ルールがよかったなど) ・ 本時の伸びを全体で称賛する。 ★ 教師は、子供の体育ファイル記入をペンでチェックする。 ★ 発表者の方に体を向ける。	
	11 学習の後片付け (道具・場)		

伊佐市授業改善ポイント

ひきつけよう

つかむ・見通す

うごかそう
挑戦する

なっとくさせよう
確かめる(生かす)

仮説1 (授業改善アプローチ)

研究紀要p.8 補助資料p.3

一単位時間の指導計画作成

共通実践事項 (つかむ・見通す)

ひきつけよう	つかむ・見通す	1 運動の準備 (道具・場)	★ 授業前に鉛筆を1本体育ファイルにはさんでおく。筆箱からの出し入れはしない。
		2 準備運動 体幹トレーニング	★ 座って話を聞くときは、体育座りをする(全体を通して)。 ・ 授業前に子供がしていても、運動で使う部位を中心に再度行う。 ・ 各種運動での技能向上をねらい、体幹トレーニングを取り入れる。 ★ 体幹トレは「呼吸と姿勢」への意識を整えてから取り組む。
		3 きらきらタイム	・ 主運動につながる運動を中心に取り入れる。 ★ 主運動につながるための声かけ、ポイントを大事にする。 (態度的な声掛け：技術的な声掛け=5:5)を意識
		4 めあての確認	・ 問題解決的なめあてを設定する。 ~ICT活用~ 【動画と静止画の適正、意図を明確にして活用を図る】 【「何のために」(目的意識)という視点を明確にする】
		5 学習の見通し	・ 単元全体の流れ、一単位時間の流れを掲示する。 [構造的な板書との関わり]



- 各種運動の技能向上
- 主運動につながる運動

- 課題把握につなげるICT活用

● 仮説 1

（授業改善アプローチ）

研究紀要p. 8 補助資料p. 3

一単位時間の指導計画作成

共通実践事項（挑戦する）



うごかそう	挑戦する	6 挑戦Ⅰ（ポイントの発見）	<p>〔構造的な板書との関わり〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 試しの活動で、自己（チーム）の課題を発見する。 子供がわくわくする教材・教具、場、ルール、作戦を構想する。 <p>～ICT活用～</p> <ul style="list-style-type: none"> 状況によっては、教師が準備した選択肢を子供の選択肢として取り入れてよい。 <p>★ 教師の試技（説明）等は最後まで黙って聞く。器具や道具等は触らない。</p>
		7 <u>話し合い</u>	<ul style="list-style-type: none"> 自他の動きから課題探究をする。 「目的」「方法」「ゴール」を設定する。 ワークシートやホワイトボード、板書を活用してポイントをまとめる。 <p>～ICT活用～</p>
		8 挑戦Ⅱ（ポイントを基にした練習）	<p>★ 子供の考えを引き出すコーディネートを心がける。教師が話しすぎない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動時間をできるだけ確保する。 <u>よかった動き等は、積極的に紹介する。</u> <p>～ICT活用～</p>

- 主体的な活動を促す「話し合い」の設定
- 「話し合い」の視点の明確化
- ICT機器等の効果的活用

共通実践事項（確かめる・生かす）

なつとくさせよう	確かめる（生かす）	9 整理運動	<ul style="list-style-type: none"> 運動で使った部位を中心に行う。
		10 振り返り（成果・課題の共有）	<ul style="list-style-type: none"> 自己の伸びを実感できるように、全体で価値付ける。（楽しかった→できたから→こつに気付いた、作戦がうまくいった、ルールがよかったなど） 本時の伸びを全体で称賛する。 ★ 教師は、子供の体育ファイル記入をペンでチェックする。 ★ 発表者の方に体を向ける。
		11 学習の後片付け（道具・場）	

- 成果や課題の振り返り
- 教師がその場でチェック
- 達成感や肯定感を味わう



仮説 1

(授業改善アプローチ)

つながりの意識

過程	主な学習活動	共通実践事項(★)	留意点
ひきつけよう	1 運動の準備 (道具・場)	★ 授業前に鉛筆を1本体育ファイルにはさんでおく。筆箱からの出し入れはしない。	
	2 準備運動 体幹トレーニング	★ 座って話を聞くときは、体育座りをする(全体を通して)。 ・ 授業前に子供がしていても、運動で使う部位を中心に再度行う。 ・ 各種運動での技能向上をねらい、体幹トレーニングを取り入れる。	★ 体幹トレは「呼吸と姿勢」への意識を整えてから取り組む。
	3 きらきらタイム	・ 主運動につながる運動を中心に取り入れる。	★ 主運動につながるための声かけ、ポイントを大事にする。 (態度的な声掛け: 技術的な声掛け=5:5)を意識
	4 めあての確認	・ 問題解決的なめあてを設定する。 ~ICT活用~ 【動画と静止画の適正、意図を明確にして活用を図る】 【何のために】(目的意識)という視点を明確にする	
	5 学習の見通し	・ 単元全体の流れ、一単位時間の流れを提示する。 【構造的な板書との関わり】	
うごかせよう	6 挑戦I (ポイントの発見)	・ 試しの活動で、自己(チーム)の課題を発見する。 ・ 子供がわくわくする教材・教具、場、ルール、作戦を構想する。 ~ICT活用~ ・ 状況によっては、教師が準備した選択肢を子供の選択肢として取り入れてよい。	
	7 話し合い	★ 教師の試技(説明)等は最後まで黙って聞く。器具や道具等は触らない。 ・ 自他の動きから課題探究をする。 ・ 「目的」「方法」「ゴール」を設定する。 ・ ワークシートやホワイトボード、板書を活用してポイントをまとめる。 ~ICT活用~	
	8 挑戦II (ポイントを基にした練習)	★ 子供の考えを引き出すコーディネートが心かける。教師が話しすぎない。 ・ 運動時間をできるだけ確保する。 ・ <u>よかった動き等は、積極的に紹介する。</u> ~ICT活用~	
なっとくさせよう	9 整理運動	・ 運動で使った部位を中心に行う。	
	10 振り返り(成果・課題の共有)	・ 自己の伸びを実感できるように、全体で価値付ける。(楽しかった→できたから→こつに気付いた、作戦がうまくいった、ルールがよかったなど) ・ 本時の伸びを全体で称賛する。	★ 教師は、子供の体育ファイル記入をペンでチェックする。 ★ 発表者の方に体を向ける。
	11 学習の後片付け (道具・場)		

課題意識
関心
継続性

主体性
積極性

達成感
肯定感

意識のつながり

○具体的な取組

- ・ 体力向上プログラムの作成
- ・ 「一校一運動」の取組
- ・ 仲良し体育の取組
- ・ 体育的行事での取組
- ・ KOBA式体幹トレーニング
- ・ 校内掲示（環境づくり）



体力向上プログラムの 作成 〔仮説2〕

仮説 2

(授業外の取組によるアプローチ)

○作成方法

令和3年度 西っ子 体力向上プログラム												伊佐市立羽月西小学校	
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
重点	体力つくりの目標達成への意欲付けをする	体力つくりの運動を促し、体力向上を目指す	水に親しませ各自のめあてに沿った泳力を高める			運動会で力いっぱい競技に取り組む	体力つくりの運動を促し、体力向上を目指す(持久走)	(持久走)	(持久走・縄跳び)	(縄跳び)		体力つくりをふり返り、次年度への意欲付けをする	
自主体力つくり	朝の体力つくり(ランニング、短縄跳び、長縄跳び) ※学期末にふり返り					朝の体力つくり(ランニング、短縄跳び、長縄跳び) ※学期末にふり返り							
行事		体力テスト(1回目)		水泳大会 水泳記録会		運動会	陸上記録会	グラウンドゴルフ 体力テスト(2回目)	持久走大会		縄跳び大会		
体育指導	体力向上プログラムの共通理解 体育ファイル・縄跳びカード配布 体力テスト計画・準備	体力テスト実施・分析 体育コーナーの掲示 体力アップカード配布	体力テスト実施・分析 水泳学習の目標設定	体力テスト実施		運動会		持久走大会	持久走大会	縄跳び大会	次年度計画	体力アップ	
仲良し体育	体力つくりオリエンテーション	「チャレンジかごしま」											
チャレンジかごしま	仲良し体育発表会												
遊びの推進	児童・放送委員会を中心に「みんなで遊ぶ日」の設定 ※普通遊びの奨励					児童・放送委員会を中心に「みんなで遊ぶ日」の設定 ※普通遊びの奨励							
家庭・地域との連携	すこやかチェックシート 親子での運動についてPTAで依頼(プラス5分運動、体幹トレーニングなど)	教科体育における学校応援団の活用 体力テスト保護者参加 体幹トレーニング		体幹トレーニング	体力テスト結果報告 心肺蘇生法講習会 ラジオ体操の奨励 夏休みの課題	ラジオ体操の奨励 夏休みの課題	運動会	体幹トレーニング	体力テスト保護者参加 体幹トレーニング	冬休みの課題	体力テスト結果報告 体幹トレーニング	体幹トレーニング	

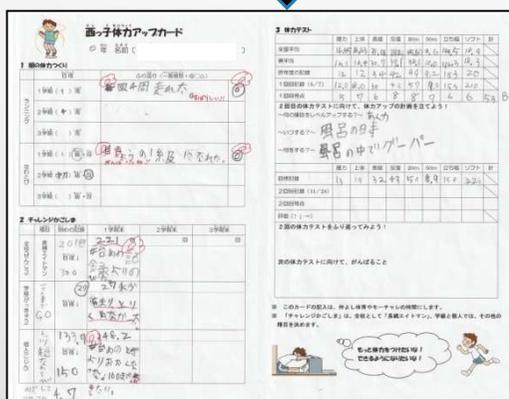
各月・各学期ごとの「重点」をもとに各項目の年間計画の内容を整理

○仮説②の取組へのつながり

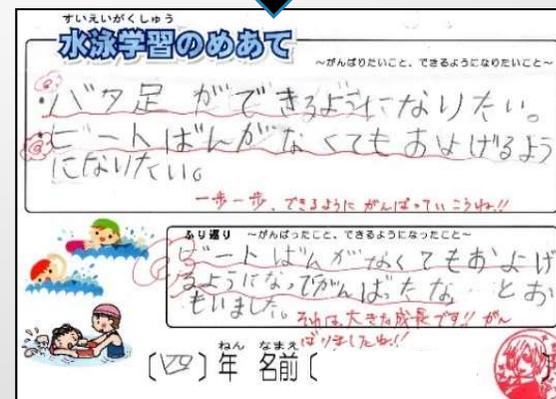
「重点」をもとにしたプログラムから教科外の取組（仮説 2）へつなぐ



一校一運動



体力アップ
カード



めあてカード

○具体的な取組

- 家庭との連携
 - ア 生活リズムチェック表の活用
 - イ 長期休業中の親子運動の推進
 - ウ 体育的行事への保護者の参加
- 地域との連携
 - ア 学校応援団の活用
 - イ 地域人材の活用



家庭における親子運動 の推進 〔仮説3〕

○家庭における親子運動の推進

毎月家族でレッツエクササイズ!

【取り組み方】

- まずは、家族で運動することについての目標（各家庭1枚）を立てましょう

(例1) お風呂上がりに5分間、毎日親子でストレッチをしよう。

(例2) 火曜日と木曜日と土日に、何か家族で運動をしよう。

(例3) 運動集から2つを選んで、毎日家族で運動をしよう。

※ 各御家庭に合わせて、達成できそうな目標を設定し、楽しく取り組んでもらえることが大事です。また、親子で運動することがこの取組の柱です。運動集以外の様々な運動でも大丈夫です。運動集は必要に応じて御活用ください。

無理なく、楽しく、続けられそうな目標にしてみましょう♪



- 目標達成を目指して、実践をしましょう。



- 目標に対する振り返りをし、次の月の取組・目標につなげていきましょう。(持・直) 家

目 標	いつ	だれと	どれくらい時間・回数など	何をする
○がんばれそうな目標ができたかな?	出来る時間に	お父さんと	×10回	筋力トレーニング
振り返り (感想・反省) ○目標は達成できたかな? ○親子で取り組めたかな?	今日はつい忘れて出来ない事がありました。行える時は子供達と一緒に取り組む事が出来ました。又、やる時はカッきそうな時、カンパレーと言って励まして完璧出来ました。			

斗敵さん哉斗さん
すばらしいです!

ありがとうございます。こや、7 ミツコと振っていただけると、和が下いでず。
おうちの方が、いっしょにがんばってくださいと、はげみになります。カがつきますね。

- ・ すこやかチェックウィーク毎月1回
- ・ 運動への継続的な取組につなげる

○家庭における親子運動の推進

おん ぎんぎん

※ 家庭で話し合い、4つのコースから選んでください。年内に参加の上、7月14日(火)までに担任へお出しください。

ほくが、わたしが、えらんだコースは
※きょうだいで、ちがうものをえらんでもOK

コース

トライするのは、どの時間? ※例えば、つりや体操を習熟期など

続けるための作戦は ※例えば、おうちのひとと声をかけあうなど

☆保護者の皆様へ☆

親子で取り組まれる際に、おうちの方が一緒に体を動かすのがおぼつかしい場合は、コーストライ中のお子さんを「助ます、見守る」等、無理のない範囲で、仲良くお過ごしください。

また、足踏み昇降まで継続できずとも、がんばったお子さんを、たくさん褒めてください。ほめほめシャワーで、子どもたちの豊かな成長に寄り添いましょう。

ほくが、わたしの、おんぎんぎん

おうちの方から一言

★各学年部のメニュー

1・2年	3・4年	5・6年
<p>○息を大きく吸い込んで、お腹をへこませたまま息を吐き出す(ドローイン)。腹筋を意識。</p> <p>1 基本のポーズ</p> <p>両手は水平、背筋と立ち足の膝を伸ばす。上げた足はももが水平になるように。足の指で地面をつかむイメージで。10秒間×左右1回ずつ。</p> <p>2 手を上げて</p> <p>基本のポーズと同じ要領で。6秒間キープ。その姿勢から…</p> <p>3 手を広げるポーズへ</p> <p>2のポーズから3のポーズへ姿勢を変える。4秒間キープ。背中から上げた足がまっすぐになるように。顔は正面を向く。</p> <p>4 左右にステップ(片足バランス)</p> <p>1・2・3のリズムで左右にジャンプ。片足で身体を支える。左右5回往復する。</p> <p>5 番外編で…</p> <p>自分の体を自分の腕で支えられるようになってほしいということで、倒立もチャレンジさせてください! という事です♪</p>	<p>1 基本のポーズ</p> <p>左記のとおり。 10秒間×左右1回ずつ。</p> <p>2 手を広げてキープ</p> <p>1・2年の3と同様に 10秒間×左右1回ずつ。</p> <p>3 左右にステップ(片足バランス)</p> <p>1・2年の4と同様に。 膝をやわらかく使って、左右往復5回。</p> <p>4 その場ジャンプ</p> <p>膝を曲げた状態からジャンプ。そしてバランスを保ったままで着地。ぐらつかない。5回。</p>	<p>1 手を上に上げて</p> <p>両手上に上げて、片足で10秒キープ。その状態から足を入れ替えて、さらに10秒キープ。これを2セット。</p> <p>2 駆け足をはさんで</p> <p>両手上に上げて、片足で10秒キープ。その状態から10回素早く駆け足をして、その後すぐに反対側の足で両手上げて10秒キープ。これを2セット。</p> <p>【ここに気を付けて…】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ドローイン(おなかをへこませた)の状態をキープしたままです。 ○ 足の指でぐっと地面をつかむ感じで。 ○ 1・2・3…と声を出すと腹筋を使うのでよいです。 ○ 背中の伸び、膝の伸びなどを意識しながら、正しい姿勢で。 ○ 継続は力なりです♪

- ・ 長期休業 (夏休み・冬休み)
- ・ 全体PTAで課題や取組方等の共有



地域人材の活用

〔仮説3〕

○地域人材の活用



カヌー教室



ソフトボール教室

- ・ 専門的な知識、豊富な経験

○地域人材の活用



体幹トレーニング



陸上教室（授業補助）

- ・ 学校と地域人材をつなぎ、子供の運動意欲向上につなげる

● 研究の成果

成果 1

運動する楽しさや喜びを感じる子供が増えた

成果 2

課題意識をもち、主体的に運動する子供が増えた

成果 3

子供の体力や運動習慣に対する課題意識が高まってきた

課題 1

★ 友達と教え合ったり助け合ったりする活動はどうですか。〔子供の意見：令和3年.7月〕

・友達に教えてもらうとできるようになった。・やる気が出る。・協力できるのが楽しい。・友達の意見を知ることができ、そこから工夫することができる。・協力している感じが好き。

話し合ったり助け合ったりするよさ（積極性や課題意識へのつながり）を感じている子供が増えてきている一方…



★ 友達と教え合ったり助け合ったりする活動はどうですか。〔子供の意見：令和3年.7月〕

・意見を言うことや聞くことが苦手で面倒だ。・考えるのが嫌だから苦手だ。

よさを感じていない子供に対するアプローチの仕方を工夫する

● 研究の課題

課題 2

複式の年間指導計画（A年度・B年度）
知識・技能の確実な習得のために



学習内容のつながりを意識して指導する
指導した内容を蓄積、情報を引き継ぐ

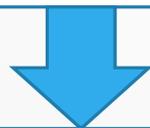
課題 3

家庭における運動習慣の二極化
主体的な実践につなげるために



効果的な情報の発信、実践例の紹介
家庭に寄り添ったアプローチ

運動が苦手な 子供への手立て



その1

- ・きらきらタイム
- ・技能習得につなげるポイントを明確にした声かけ

実態

ゴール型ゲームが苦手



その1 知識・技能の定着

- ・ きらきらタイム
- ・ 技能習得につなげるポイントを明確にした声かけ

運動が苦手な 子供への手立て

その2

- ・活動を参観している子供への関わり
- ・参観の視点を近くで具体的に伝える

運動が苦手な 子供への手立て



その3

- ・ 振り返りの場面
- ・ ワークシートをその場でチェック
- ・ 一人一人の頑張りを共有し、達成感へ

《研究協議の視点》

- 本校研究の仮説の中から、参加者の課題意識の高い内容を「協議の視点」とし、協議を行う。

協議の視点

①	単元の指導計画作成について（仮説1）
②	一単位時間の指導過程の作成について（仮説1）
③	板書の構造化について（仮説1）
④	ICT機器等の活用について（仮説1）
⑤	ワークシートの活用について（仮説1）
⑥	体育ファイルの活用について（仮説1）
⑦	授業外の実践によるアプローチについて（仮説2）
⑧	家庭や地域との連携によるアプローチについて（仮説3）

御清聴ありがとうございました